

老健たより

NEWS FROM ROKEN

第40号



明るい笑顔、大事にしたいです。

CONTENTS

- P2 新施設長・新看護師長ご挨拶
- P3 ろうけんスケッチ（冬・春）
- P4 認知症ケアだより
リハビリだより

【発行】
公立八鹿病院 老人保健施設

施設長 谷風三郎 平成28年4月発行
兵庫県養父市八鹿町下網場413
TEL(079)662-2355 FAX(079)662-2388

ごあいさつ

新施設長より



公立八鹿病院
老人保健施設施設長

谷風 三郎

いろいろな面からもっとも適切なプログラムを作成し、長期入所のみならず短期やデイケアなど目的に応じて、サービスさせていただいております。近年当地域でも高齢化が速い速度で進んでおり、高齢者の独居や老老介護、認知症など、簡単には解決しない問題が山積しておりますが、職員一同、入所中は同じ家族一員として一緒に笑い、一緒に悩みをモットーに頑張っております。また入所中に体調をくずされることも少なくありません。その中で医療が必要となる場合は隣接する八鹿病院を受診したり入院したりすることもあります。常に医師、看護師の管理下におき、診断、治療が遅れないよう日に日をひからせておりますが簡単な治療で済む場合は老健のなかで処置させていただいております。

入所中の生活ですが、利用者様の体調、ADL、家庭環境など

が退屈されないように、介護職員

いろいろな面からもっとも適切なプログラムを作成し、長期入所のみならず短期やデイケアなど目的に応じて、サービスさせていただきます。近年当地域でも高齢化が速い速度で進んでおり、高齢者の独居や老老介護、認知症など、簡単には解決しない問題が山積しておりますが、職員一同、入

所中は同じ家族一員として一緒に笑い、一緒に悩みをモットーに頑張っております。また入所中に体調をくずされることも少なくあります。その中で医療が必要となる場合は隣接する八鹿病院を受診したり入院したりすることもあります。常に医師、看護師の管理下におき、診断、治療が遅れないよう日に日をひからせておりますが簡単な治療で済む場合は老健のなかで処置させていただいております。

新看護師長より



公立八鹿病院
老人保健施設看護師長

内田 留美

この度4月1日より公立八鹿病院

へと異動となり勤務せざるを得ません。私はまだ未熟であり、皆様にはご迷惑をおかけするところ多々あるかと思いますがどうぞよろしくお願いいたします。

などが中心となり、いろいろ工夫をこらしてイベントをおこなっています。利用者の中には定期的に入所いただいている場合もありますが、退所される時、また来たいなと思つていただけるように、サービスのレベルを上げる努力をいたします。もし、入所の「希望」やご紹介いただく場合は見学などをしていただけるので、「遠慮なくお問い合わせください。

高齢の中、なかなか住み慣れた自宅で生活できない方が多くおられます。その中で在宅生活を送つていくためには、サービスの利用はかかせないこととなってきたいます。少しでも長い間、在宅でご家族との生活が続けられるよう、利用者、家族の皆様の期待にこたえられるようスタッフ一同お手伝いさせていただきたいと思っております。地域の方々から頼りにされる、なくてはならない老人保健施設であるように頑張っていきたいと思います。

公立八鹿病院
老人保健施設

12月 クリスマス会

トナカイもびっくり！ディケア職員によるハンドベル演奏とマジックステージを、楽しんでいただきました。



12月 お正月準備

昔ながらの杵と臼で、ぺったんぺったん大きな鏡餅ができました。



楽しい行事満載！

るうけん スケッチ

—冬・春—



1月 新年会

みつのぶ会様による見事な踊りを披露していただきました。かわいらしい踊りに、利用者様もにっこり。



2月 節分・豆まき

二匹の赤鬼を皆さんで退治しました。
福の神も登場。



3月 ひなまつり

八鹿ふれあいクラブのひな祭り展に、
利用者様の作品を出展し、楽しく見学
もさせていただきました。



4月 お花見

日高町の隆国寺様や、町内へお花見にてかけました。満開の桜にうっとり。



認知症ケア
だより

介護者の集い「なでしこカフェ」の今

日ごろは、なでしこカフェへのご参加、ご協力ありがとうございます。介護者の方に少しでも憩いの場の提供をとの思いから始めたなでしこカフェ。早いもので、月一回毎月第三水曜日の開催から、4月で17回目（1年5ヶ月）を迎えるとしています。ご家族様へのお声かけからポスターでのお知らせなどを通して、多い月では10名を越えるご家族様のご利用をいただいている。昨年の9月に開催された全国老健大会ではこの度の取り組みを発表する機会も与えられました。「ようこそ！老健介護者の集いなでしこカフェへ」との声かけで始まるなでしこカフェ。毎回内容は、「介護生活への思いの共有・共感」を中心に参加される方の言葉から導き出され、充実したものとなっています。聞く側の職員もご家族様の生の声を通し



て利用者様の家族
の中での役割、そ

介護福祉士
曰野照彦

の方固有の人生史に触れるとても貴重な場となっており、改めてご家族にとって大切な方にご利用いただいていると、再認識しています。しかしながら現状はまだまだ途上の段階であり、毎月毎月「今日はどなたも来てくださいなければどうしよう…」と不安な思いで準備しているのも正直なところです。灯火が消えそうな活動かも知れませんが、たとえどなたも来られない月があったとしても灯火が消えることなく活動を継続していきたいと願っています。そのためにも皆様のご意見を伺いながら介護者の皆様が少しでも「ほっと」していただけるような場になりますよう、努力していくと願っています。

今後とも、介護者の集い「なでしこカフェ」をよろしくお願ひいたします。

リハビリだより

自助具って聞いたことがありますか？

『自らを助ける道具』と言われている自助具とは、何らかの病気で腕や手が麻痺したり、関節が固くなつて動かしにくくなる、腕の切断等で日常生活を送ることが難しくなつた方の為に製作された道具です。自助具を使う事で、時間がかかっていた、また人に助けてもらっていた身の回りの動作が楽に自分で行えるようになります。体が不自由な方の生活に密着した道具であるため、容易に取り扱え単純な操作で利用できる配慮がされています。

福祉用具と言えば、ポータブルトイレやベッド、車椅子など排泄・寝起き・移動といった基本的な日常生活を援助するもので多くは市販品で標準的なものが殆どです。しかし・自助具は食事・整容・更衣・調理等様々な応用動作場面で使用するため、個人の癖などに合ったものを使用する必要があります。例えばスプーンで

は、握りが不十分
な方には太柄のも
の、利き手が麻痺
して使用できない

作業療法士
正垣 幸

が箸の使用を希望される場合にはピンセット様になった握ればつまめる箸等様々な上肢機能に合わせた市販品があります。また、個々の動きに合わせ作業療法士が作成する場合もあります。その他、ボタンエイドというボタンを留めるための道具や靴下を履くためのソックスエイドは安価で手作りできます。

少しの工夫で出来なかつたことが自分で出来るようになるという事は、本人にとっても家族にとっても良いことではないでしょうか。何か日常生活で気になる事があればお気軽にお声かけください。

